

森

の通信



◆◆◆ 自然と歴史の大発見 ◆◆◆

宮崎県総合博物館

Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/平成18年7月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071  
<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/> E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.jp FAX(0985)24-2199

# わくわく・ドキドキ 化石展

～よみがえる宮崎の古代生物たち～

宮崎県には、古生代から新生代に至るほとんどすべての地層や岩石が分布しており、それに伴い各時代の様々な化石も見つかっています。会場では、宮崎県内で産出した化石を中心に、地史や現生の生きものに関連づけた展示を行い、化石の持つ魅力や役割をわかりやすく紹介しています。また、「巨大アンモナイトと写真を撮ろう」や「化石のレプリカをつくろう」など親子で楽しめる体験コーナーや、わくわく・ドキドキな国内外の化石の展示もあります。この夏、よみがえった宮崎の古代生物たちにぜひ会いに来てください。(山本)



ミヤザキエンコウガニ



熱帯性巻貝ハシナガソテガイ

観覧  
無料



日本最大級 巨大アンモナイト

巨大ザメ  
カルカロクレス・メガロドン

宮崎の化石  
大集合!!

## 化石展関連講座

ミュージアムトーク ～化石の魅力、発見の喜び～  
 講師：岡山清英氏、河野貴雅氏（宮崎化石研友会）  
 日時：8月6日（日）10:00～12:00  
 会場：博物館2階研修室1  
 定員：80名（申し込み必要）

2006年 7/22(土) ▶ 9/3(日)

観覧時間：9:00～17:00 休館日：8月17日（木）

宮崎県総合博物館 特別展示室

# 「植物と人々の暮らし」展

期間 平成18年10月7日(土)～11月26日(日)

人々はこれまで自然と向かい合ってきました。自然は台風や干ばつといった災害をもたらすこともありますが、生活に必要な様々なものを恵んでくれました。中でも、植物の恩恵は多岐にわたっています。山の植物は食糧難の時は、命をつないでくれました。今でも山菜は私たちの食生活を豊かにしてくれます。木の材は、家の柱や屋根材など住宅の建築材料として利用されたり、家財の材料、農具類の材料などとして、多方面に利用されています。竹材も、ザルやテゴなどいろんな道具の材料として利用されています。正月から大晦日までの年中行事でも植物の存在は欠かせません。花を愛で、紙を作り、布を染め、炭を作り、葉としても利用しました。

この展示会は、人々がどのような植物を利用してきたのか、どのような道具を作ってきたのか、そして現在ではどのような使われ方をしているのか、これらについて多くの民俗資料や写真等で展示紹介し、温故知新、古きをたずね新しきを知る機会とするものです。なつかしい民具や道具などが豊富に展示されます。あの頃を探しに、ぜひお出でください。(齊藤)



宮崎の自然情報

## 青島の植物

宮崎を代表する観光地「青島」は南国情緒たっぷりの宮崎を代表する観光地です。ほぼ全面をピロウにおおわれ、林内には亜熱帯性の植物が数多く見られます。博物館では、講座「野外調査会」の参加者と青島の植物の移り変わりを調査する目的で、昭和29年の青島総合調査以来、約50年ぶりに調査を行いました。

遊歩道から確認できる範囲を中心に調査し、196種の植物が確認されました。これは50年前の7割の種類数で、以前見つからない植物31種類が含まれていました。この変化の要因として、50年前に比べるとピロウが大きく生長したことで林内が暗くなり、下にはピロウの葉が溜まり、他の植物があまり生育できない状態であることなどが考えられます。このように青島のピロウは安定した状態を保っていますが、周りの植物は刻々と変化していることがわかりました。

下の左の写真は、今から約70年前の青島です。以前は島の中に大きなクロマツがありましたが、今ではその木も枯れ、外観も以前とは大きく変わっていることがわかります。(黒木)



昭和12年(1937年)石川春海氏撮影



平成17年(2005年)現在の青島

## 講座紹介

◆歴史部門◆

# 「こどもの日よろい・かぶと着用体験！」

子どもの健やかな成長を願う「こどもの日」に親子で参加する催し物を実施するとともに、歴史に関する興味・関心を持ってもらおうと「よろい・かぶと着用体験！」を実施しました。今年で4回目を迎えた同講座には、事前の申込みで来館した132名と当日兜のみの着用体験をした48名の合計180名のご家族が参加しました。今年から事前の申込制になったことを知らずに来館された親子連れもいらっしゃいましたが、兜だけ着用したあと「来年は申込みをしようね。」という会話も聞こえてきました。体験中に、あるご家族がテレビ取材に応え、「小さい頃は病気がちだった我が子が、こうして重いよろい・かぶとを着用できるくらいに成長した姿を見られたことがとても嬉しいです。」と話していたのが印象的でした。来年も改善を加えながらこの講座を継続していこうと思っています。(中竹)



## 常設展示室紹介

◆民俗部門◆

# 「サゼ」



海で釣りや網で漁をしていると釣り糸や網が海底の岩などにひっかかってしまうことがあります。潜って行ってかかった糸を外すのは、なかなか大変な作業ですし、危険もともないます。この時使われるのがこの「サゼ」という道具です。サゼは、中に鉄や鉛、石などが詰められているので小さくても結構な重さがあります。これをひもに結びつけて上から落とし、岩を砕いて糸や網を無事に引き上げるのです。サゼは、民俗展示室の海にくらすのコーナーの壁面に展示されています。気を付けていないと見落としてしま

う道具ですが、海で生きる人達の創意と工夫が込められています。(崎田)

## 博物館への問い合わせより

# 2万年前の石器はどうやって使っていたの？

考古部門では最初のコーナーで旧石器時代の紹介をしていますが、石器の使い方についての質問がよくあります。旧石器時代には狩猟用の尖頭器のほかに動物の皮を切るナイフ形石器や皮をなめすスクレイパーなどいろいろな石器が使われています。博物館ではそれらの石器の使用例についてパネルや復元模型を作成して紹介しています。写真の資料は北方町

(現延岡市) 矢野原遺跡で実際に発見された石器に柄を装着した跡がくっきり残っていたことから、この石器をモデルに作成した装着模型です。装着の方法はいくつか考えられますが、木製の柄の先に石器を装着し動物の皮などを切り裂きやすくしています。石器をどのように使っていたのかが分かるおもしろい資料です。(永友)



## 新収蔵資料紹介

◆動物部門◆

# ツノシマクジラ骨格標本と頭骨レプリカ

ツノシマクジラはナガスクジラ科の新種として、2003（平成15）年、国立科学博物館山田格氏等が「ネイチャー」に学名：*Balaenoptera omurai* として発表した種です。今回収蔵した骨格標本は、2005（平成17）年8月30日に宮崎市一ツ葉入江に漂着した体長3.2mの子どものもので、国立科学博物館の山田氏も掘上・調査に参加し、頭骨の特徴などから、ツノシマクジラと同定しました。国内のツノシマクジラ骨格標本は、山口県角島産（タイプ標本）と香川県粟島産の2体（ともに国立科学博物館が収蔵）しかなく、今回の骨格標本が3体目、かつ産まれて間もない子どもの標本ということで、本標本は高い資料的価値を持ちます。また、頭骨は組み立てると分解が難しいので、組み立て・分解の可能な頭骨レプリカもあわせて製作しました。（末吉）



## 解説員の声 Voice

桜の季節も終わり、新緑が美しい季節がやってきました。常設展が無料になり1年が過ぎました。初めて来館されたお客様が楽しそうに見学されていると、私達も自然と笑顔になり、今以上に喜んでいただけるように頑張らなければという気持ちになります。

さて、展示室には季節を感じる展示物がいくつもあります。自然史展示室の「宮崎の水辺」のコーナーでは、海や川に生息する魚や小動物などを紹介しています。これから夏になり川や海に遊びに行かれる機会も多くなると思います。そこで見たものを展示室で探し、調べてみてはいかがでしょうか。きっと今まで以上に多くの発見があると思いますよ。（展示解説員：勢井）



## お知らせ

### \*エントランスロビー展示のおしらせ (観覧無料)

#### 夏休み特別企画「宮崎の川と海の水族館」

夏休みに宮崎県水産試験場の協力で宮崎の川と海の魚やエビ・カニなどのさまざまな生きものを展示します。期間：8月19日（土）～27日（日）



#### 「服部植物研究所とコケの世界」

服部植物研究所は日南市鉄肥にあり、世界唯一のコケ類専門の研究機関で今年で創立60年を迎えます。これまでに集めた47万点の標本から珍しいコケ・美しいコケを写真と共に紹介します。期間：10月14日（土）～11月5日（日）

#### \*夏休みの休館日について

夏休み期間中は8月17日（木）のみが休館となります。